
夜に等しい愛を。

壬生一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜に等しい愛を。

【Nコード】

N7770I

【作者名】

壬生一葉

【あらすじ】

純粹な恋のカタチ。。。。

「俺が告ったら付き合ってくれる？」

彼の言葉に驚き、彼女は黒板消しを床の上に落とした。白い粉がほわっと舞った。

「今度の小テストで全問正解したら、付き合って。」

彼は言葉を続けた。

「つき合わないわよっ……。」

彼女は黒板消しを拾い上げた。

彼と彼女しか居ない教室。外は真っ赤に焼けていた。

「俺の事、気になってるでしょ？」

「……どういふ自信？」

「授業中俺の事ばかり見てんじゃない。」

「君があたしを見てるからでしょ？」

「俺とすれ違う時、緊張してる。」

「君が。」

彼の言う事は間違っていない。

彼女は、彼を意識して此処に来てからというもの、自分の理性と戦っていた。

[illegible]

教育実習初日、幼稚部から高等部まで敷地が一緒のこの高校を目の前に彼女は茫然と立ち尽くした。

半端じゃない広さと、どれがどの校舎なのかも明確でない不親切な建物。

正門前で声を掛けてきたのが、彼だった。

「・・・教育実習の人？」

彼女が振り返ると、イマドキの高校生が堂々と遅刻してきていた。

「は・・・はい。高等部の職員室に行きたいんです・・・けど・・・」

「こっち。」

「は、はい。すみません。」

実習生だからって”先生”なんだからと気合を入れたスーツの彼女が、高校生の彼の後ろをちよこちよこ歩いて付いて回る姿は、滑稽だった。暫く歩いて「そこ」と一言言くと、彼は姿を消した。

2年A組のホームルーム、教壇に立ち挨拶をすると窓際の席に彼女は彼が居るのを見つけた。

彼が、彼女を射抜くように見つめていた。

「今日から二週間宜しくお願いします。た担当は数学です。」

彼は何かと彼女に質問を浴びせた。

「どこの大学行ってるの？」

「家どこ？」

「彼氏居るの？」

彼女はその度に、はぐらかした。

十代の男の子がちょっと年上の教育実習生に興味を持つのは良くある事だと心得ていた。

彼女が高校生の時もそうだった。

んなのは理由にならない。」

グラウンドの方から金属バットが快音を鳴らしている。

「俺の本質を見た事にはならない。」

ランニングするテニス部の掛け声も聞こえた。

「理性で人を好きにはならない。」

彼の言う事は真っ直ぐで、否定する為の言葉一つ出てこない。

彼女は文系が苦手だ。

「先生が好きだよ。」

彼は彼女を抱き締めた。

「返事は、要らない。先生に拒否権なんてないんだから。」

不器用に強すぎる彼の力が、彼女の理性を砕いた。

彼の出した問いの答えは、最初からそれしかなかったのだから。

*** Fin ***

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7770i/>

夜に等しい愛を。

2011年1月16日08時33分発行